

結婚の意思決定に関するパネル分析[†]

北村行伸^a 坂本和靖^b

1. はじめに

本稿の目的は、結婚の意思決定メカニズムを実証的に検討することにある。

利用するデータは、財団法人家計経済研究所『消費生活に関するパネル調査』の1993-1997年分である。本データは、財団法人家計経済研究所が、1993年(調査開始時)に24歳～34歳であった全国の女性1500人を層化2段階抽出法により選択し、彼女たちを追跡調査しているデータである¹⁾。

これまで、結婚の意思決定メカニズムに関する研究では、その多くがクロスセクションデータあるいはクロスセクションデータを複数年まとめたプーリングデータが用いていたが、本稿では、パネルデータを用い、それが頑強な推計を得るためには適切なデータであり、それを用いたパネルデータ推計は我々の問題に取り組むにはふさわしい方法であること示している。

これまで、結婚の経済学では、未婚・晩婚化の原因として、女性の高学歴化に伴う就業地位の向上、また労働賃金の上昇などが、結婚を決める際の留保賃金を高めたことが挙げられてきた。つまり、自分の高い賃金所得が、結婚を契機に下がることを忌避する傾向が高まっていることをさしていた。その背景には自立する女性像があった。

一方、近年の社会学において、未婚・晩婚化の原因として注目されてきているのが、パラサイトシングル²⁾の増加である。そこでは、自立した女性像ではなく、親に依存する姿が浮き彫りにされている。パラサイトシングルとは、親と同居することで、生活費を肩代わりしてもらい、自分は裕福な消費生活を過ごしているものをさしているが、彼女たちにとって、結婚によって、自分たちで生活費を賄ない、またひいては結婚前の裕福な消費生活を放棄しなければならないことは、結婚を決定する上で負の影響を与えていると考えられている。結婚を意識する20代後半から30代前半の子ども³⁾の親世代は、年功序列体系の賃金プロフィールではピークを迎えており、結婚相手として想定できる

[†] 本稿は2001年日本経済学会秋季大会においての報告をもとにしている。樋口美雄教授(慶應義塾大学)、阿部正浩助教授(獨協大学)、本誌レフェリーより多くの有益なコメントを頂いた。記して感謝したい。

^a 一橋大学経済研究科付属社会科学統計情報研究センター助教授

^b 一橋大学大学院経済学研究科博士課程

¹⁾ 詳細な点については、毎年発行されている、(財)家計経済研究所編『消費生活に関するパネル調査』、財務省印刷局を参照されたい。

²⁾ パラサイトシングルについて詳しい文献として、山田(1996)、山田(1999)などが挙げられる。

同年代の男性の賃金に比べると、親と一緒に生活する方が彼女たちにとって効用が高いといえる。これは Easterlin の相対的所得仮説(Relative Income Hypothesis)³⁾の一変種と考えられる。ここでは、これまで子供たちが親元で経験してきた生活水準と結婚することによって置かれる経済状態の格差が出生行動に影響を与えていると考える。つまり、親元で高い生活水準を経験してきた子どもが、結婚することによって、今後は相対的に低い生活水準しか享受できない見込みであれば、結婚することをためらうことを示している。

本稿では、これまで結婚選択に関して経済学が取り上げられてきた、就業形態の選択に加えて、親と同居しているかどうかという居住形態の選択を考慮した結婚の意思決定メカニズムを導き出すことを目的としている。特にパネルデータが使用できることによって、同一人物の行動を複数年にわたり追跡が可能となり、結婚選択を行なったサンプルの結婚前後の就業形態・居住形態の変化を観察することができる。これは、先行研究では行なわれていなかった点である。

また、継続した同一個人データを用いた場合、イベントヒストリー分析という手法もあるが、これに対するパネル分析の長所としては、モデル内の説明変数を制御しても残存する、観察されない異質性の問題を、家計特有の定数項(あるいは攪乱項)として取り扱うことで、比較的容易にパラメータ推定の偏りを免れられる点が挙げられる。

ここでの具体的な推計内容としては、結婚選択と就業・居住形態との関係、居住形態と就業形態との関係の2点についてパネル・プロビット分析を行う。まず、結婚選択に与える、就業選択と居住形態選択の両者の影響について考察する。その後、経済学、社会学でそれぞれ大きな因子として取り扱われている両者の関係についての分析を加えたい。

2. パネルデータ推計の方法

調査時点ごとの未婚率(1-結婚率)を見ると、調査年度が後になるほど同じ年齢でも未婚率は高まることがわかる。これは晩婚化現象を反映したものであるが、このような晩婚化現象を時間(time or life-cycle)効果、コーホート効果、個別固定効果のうちそれぞれがどの程度説明できるのかも実証的に解明しなければならない。同じデータを使った先行研究には、樋口・阿部(1999:39~42)があるが、そこでは、結婚に関しては(1)有配偶=1、無配偶=0のダミーを被説明変数としたプロビット分析と(2)未婚から結婚への状態の変化に関して、結婚年齢を変数にしたサバイバル分析を行っている。

本稿では、彼らの研究とは補完的に、パネルデータの特徴をより明示的に生かした、計量経済学的手法であるパネル・プロビット推計を用いる。

³⁾ Easterlin の相対的所得仮説については加藤(2001)などを参照されたい。

ここで、ランダム効果 \mathbf{n}_i が次のような正規分布 $N(0, \mathbf{s}_n^2)$ に従うと仮定する。

$$\Pr(y_i | x_i) = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{e^{-\mathbf{n}_i^2 / 2\mathbf{s}_n^2}}{\sqrt{2\mathbf{p}\mathbf{s}_n}} \left\{ \prod_{t=1}^{n_i} F(x_{it} \mathbf{b} + \mathbf{n}_i) \right\} d\mathbf{n}_i \quad (1)$$

ここで、 $F(x_{it} \mathbf{b} + \mathbf{n}_i) = \begin{cases} \Phi(x_{it} \mathbf{b} + \mathbf{n}_i) & \text{if } y_{it} \neq 0 \\ 1 - \Phi(x_{it} \mathbf{b} + \mathbf{n}_i) & \text{otherwise} \end{cases}$ 、 Φ は累積正規分布関数

である。さらに、対数尤度関数 L を次のように定義する。

$$L = \sum_{i=1}^n w_i \log\{\Pr(y_i | x_i)\} \approx \sum_{i=1}^n w_i \log \left\{ \frac{1}{\sqrt{\mathbf{p}}} \sum_{m=1}^{n_i} F(x_{it} \mathbf{b} + \sqrt{2 \frac{\mathbf{r}}{1-\mathbf{r}}} a_m^*) \right\} \quad (2)$$

また w_i はパネル i に対するウエイトを表す。一般回帰式とは異なり、解析的に連立方程式の解を求めることはできない。代替的に、数値計算に基づく求積法を用いて、 $F(\cdot)$ 式を多項式で近似させる。しかし、時間軸の観察点が増えると、多項式の近似は有効ではなくなることが知られている。推計される r (rho) が 0.7 以上であれば、時間軸は 10 点 (10 年) 以内でなければならない。本稿で推計された r (rho) は 0.7 以上であるが、時間軸は 5 年であり問題はないと考えられる。上述のような対数尤度関数を最大化することによって、非線型確率関数 $F(\cdot)$ のパラメータを推計するというのがパネル・プロビットの手法である。

実証手法の正当性は最終的には統計検定によって判断されなければならない。パネル・プロビット推計がいいのか、プーリング・プロビット推計がいいのかは、テストをして決めるべき問題である。ここで用いる検定統計量は次のように導かれる。まず次の統計量を定義する。

$$\mathbf{r} = \frac{\mathbf{s}_n^2}{\mathbf{s}_n^2 + 1} \quad (3)$$

ここで、 \mathbf{s}_n^2 はパネル・レベルでの分散をあらわし、 \mathbf{r} は全分散に対するパネル・レベルでの分散の比率を表わす。ここで帰無仮説を $\mathbf{r} = 0$ とした対数尤度比検定を行い、 $\mathbf{r} = 0$ が棄却できなければ、パネル・レベルでの分散は重要ではなく、パネル・プロビット推計はプーリング・プロビット推計と大きく変わらないことになる。逆に $\mathbf{r} = 0$ が棄却された場合には、パネル・プロビット推計を用いるべきということになる。

次にパネル・プロビット推計では固定効果推計を行なうことは論理的に不可能であ

るし、無理に推計してもバイアスがあることを示したい⁴⁾。これに関する直感的な説明は次のようなものである。0と1で表されるような2つの状態を被説明変数にした場合、個々のサンプルが持っている固定的な属性をその説明変数とすることは、被説明変数の状態が変化しなければなんとか意味をなすが、状態が変化すれば(すなわち、0? 1か1? 0)、固定的属性でそれを説明することはできない。パネル推計の性格上、そのような固定項は時系列平均をとる時点で消滅して、サンプル期間を通して変動する変数のみが有効な説明変数となるのである。

次のようなモデルを考えよう

$$y_{it}^* = x_{it}' \mathbf{b} + \mathbf{e}_{it} \quad \mathbf{e}_{it} \approx N(0,1) \quad i = 1, 2, 3, \dots, T_i \quad (4)$$

$$y_{it} = 1 \quad \text{if } y_{it}^* > 0, \quad \text{and} \quad y_{it} = 0 \quad \text{otherwise}$$

ここで、ランダム効果モデルでは誤差項が次のように表されるとしよう $\mathbf{e}_{it} = \mathbf{m}_i + \mathbf{n}_{it}$ ここで $\mathbf{m}_i \approx IID(0, \mathbf{s}_m^2)$ 、 $\mathbf{n}_{it} \approx IID(0, \mathbf{s}_n^2)$ であり、それぞれの項はお互いに独立かつ x_{it} とも独立である。この場合、 $E(\mathbf{e}_{it} \mathbf{e}_{is}') = \mathbf{s}_m^2$ となり、尤度関数は y_{it} の偏微係数の積として表せないことになる。つまり、最尤法による推計が非常に複雑になるのである⁵⁾。

3. 実証結果 1 結婚選択と居住形態

1990年代中頃までは、日本の社会制度の中では、女性の社会進出が結婚の意思選択に負の影響を与えているという論調が強かった。しかし近年、晩婚化問題はむしろ「キャリアアップ」を行い、社会的自立することを目指す女性に起因するのではなく、親と同居することによって基礎的経済的経費を負担してもらい、自分たちは高い経済的環境にいる「パラサイトシングル」⁶⁾が晩婚化の大きな要因として注目されるようになってきた。本節では、こうした議論を受け、家族との関係、特に前年に親と同居⁷⁾していたかどうかということを説明変数に加えることで、家族関係と結婚との関係の分析を行いたい。

分析するデータセットは、調査期間中に結婚を選択する可能性がある、初年度に無配偶であったサンプルだけに限定する。つまり、婚姻状態を選択する前年の社会経済的状态が、結婚行動にどのような影響を与えたかについて考察する。使用した変数に

⁴⁾ この点に関しては南カリフォルニア大学の Cheng Hsiao 教授より有益な教示をいただいた。

⁵⁾ より厳密な議論に関しては【Hsiao, 1986 : 164-167】、【Baltagi, 1995 : 178-82】、【Greene 2000 : 837-841】等を参照されたい。

⁶⁾ 山田は「学卒後もなお、親と同居し、基礎的社会生活条件を親に依存している未婚者」と定義している【山田, 1999 : 11】。

⁷⁾ 「同居」とは、家計経済研究所の定義に従い、「親と同一建物で、生計を共にしている(同居世帯)」、「親と同一建物で、生計が別(準同居世帯)」、「親と同一敷地内の別建物に居住(準同居世帯)」の3つのものをとする。

は、前年の年収(inc)、年収の2次項(inc²)、前年の貯蓄(dep)、年齢(age)、年齢の2次項(age²)、前年の非正規就業(パートダミー(Occupdu1)、前年の非正規就業(嘱託)ダミー(Occupdu2)、前年の無業ダミー(Occupdu3)⁸⁾を、そして、前年の同居ダミー(Cohabpa、親と同居=1、親と別居=0)、被説明変数には、有配偶か無配偶かを示す配偶状態ダミーを用いる。

また、パネル・プロビット分析を行うため、学歴、コーホートなどサンプルに属する固定的要因や、変動が少ない、都市規模、親の所得階層などの準固定的要因は事前に分類して分析を行う。基本統計量は図表 - 1に、実証結果は図表 - 2に示してある。対数尤度比検定の結果、 $r = 0$ は棄却された。すなわちパネル・プロビット推計が支持され、プーリング・プロビット推計は棄却される⁹⁾。先行研究(樋口・阿部,1999:42)で有意とされた前年の本人収入は、ここでも負に有意となることが確認された。これは所得を外生とした場合、高収入のほうが結婚確率が低くなっていることを意味している。年齢に関しては、一次と二次の項を入れて非線形性を検定し、一次の項が正(結婚確率を高める)、二次の項が負(結婚確率を低める)となっている。両方とも有意な結果が得られ、年齢に関する強い非線形性がこのサンプルから検出された。Waldカイ2乗テストによって最終的に選ばれたモデル1-1と1-3では、正規就業との比較でいうと結婚前に非正規就業(嘱託)あるいは無業を選択した方が結婚確率を低める結果となっている。また「同居ダミー」も負に有意な結果となり、予想通り同居が結婚確率を低める結果となっていることがわかった。固定的要因別にみると、都市規模別では、「13大都市」のみ、前年同居が負に有意となっており、「パラサイトシングル」が相対的に都市部において多いことと関係があることが推測される。その他では、「専門・専修学校卒」以外、ほとんどのケースにおいて「同居ダミー」はきわめて有意な説明変数となっており、有意に結婚確率を低めている(図表 - 3)。これは、「パラサイトシングル仮説」を支持しているように思われる。しかしながら、親の所得別では全てのケースにおいて同居が有意に負となっている。これは当初想定していた、高い経済状態を享受しているものほど、結婚に踏み切りにくいという相対的所得仮説とは異なった結果が得られた。

固定的要因毎に分類した場合、先行研究で注視されてきた職業形態が有意であったケースは、同居ダミーが有意だったのに比べて少なくなっている。相対的に同居ダミーの方が結婚選択に対して影響を与えていると推測される。

4.実証結果 2 居住形態と就業形態

次に、結婚選択に大きな影響を与える居住形態選択(同居するかしないか)が、就業

⁸⁾ 正規就業をレファレンス・カテゴリーとする。

⁹⁾ この結果はいわば自明である。すなわちパネル・プロビット分析をするために、固定的要因は除外して、期間内に結婚サンプルを、その間に変動した変数のみで説明するモデルが、結婚の意思決定と変数間の時間的因果関係を明示的に扱えないプーリングプロビットより情報量が多く、説明力が高いのは明らかである。

形態の選択にどのような影響を与えるのかを考察したい。

一般的に正規就業に就いている場合、所得が安定しており一部の企業では住宅手当もつくので、独立世帯を営みやすく、パート就業や無業の場合は、その多くが親と同居し、生活費を補填してもらうことで生活を営んでいると考えられる。経済の成熟度が高まるにつれて、第3次産業の比重増加、いわゆる「産業のサービス化現象」が顕著となる。特に外食産業などは、その性質上、景気の波によって大きく振れるため、柔軟に市場の需要に対応することが求められる。結果として、労働需要も大きく変化する。企業側の対応として、第3次産業は非正規就業(パート)に大きく依存するという戦略をとっている。現在の不況下にあつて、サービス産業のみならず、一般企業においても、アウトソーシング化を行ない、派遣社員、契約社員などの非正規就業従業員の割合が増えている。こうした傾向は、非正規就業従業員は同居の確率が高く、また同居は結婚確率を低下させるという結果を踏まえると、ますます晩婚化に拍車をかけているのではないかと推測される。

本節では、全無配偶サンプルと未婚継続サンプルを用いて、再びパネル・プロビット分析により、無配偶者の就業形態と居住形態との関係について検証してみることとする。

使用した変数は、所得、所得の2次項、年齢、年齢の2次項、貯蓄、そして、非正規就業形態ダミーとして、パート(Occupdu 1)、嘱託(Occupdu 2)、自営・家族従業員(Occupdu 3)、無業(Occupdu 4)の4つを用いる。被説明変数には、同居しているかどうかを示す、居住状態ダミー(Cohabit dummy、同居する=1、同居しない=0)を用いる。

固定的な要因として、ここでは、「都市規模」、「学歴」、「コーホート」、「親の所得階層」、「長女」か「長女でない」か、「父親の年齢55歳以下¹⁰⁾」、「父親の年齢56歳以上」、「母親が就業経験なし¹¹⁾」、「母親が就業経験あり」かのケースに事前に分類して分析を行う。

全無配偶サンプルに関する基本統計量は図表-4に、実証結果は図表-6に示している。対数尤度比検定の結果、 $r=0$ は棄却されており、ここでも、すなわちパネル・プロビット推計が支持され、プーリング・プロビット推計は棄却される。標本平均プロビット推計では前年の本人収入が負に有意となることが再確認されたが、年収の2次項は有意ではないため、非線形性は検出されなかった。全てのモデルにおいて、貯蓄が正に有意な結果となっている。Wald カイ2乗が高い値を示している。ランダム効果プロビットモデルでは、就業形態ダミーは有意な結果を得ることができなかった。

固定的要因別にみると、「高校卒」、「専門・専修卒」、「長女」以外は、いずれかの非正

¹⁰⁾ 1993年調査開始時。

¹¹⁾ こどもが生まれてから子どもが20歳になるまでの間。

規就業形態ダミーが同居する確率に正の影響を与えている結果となっている(図表 - 7)¹²⁾。とわけ複数の就業形態ダミー変数が有意に現れていたのは、「本人の年齢 24 ~ 26 歳」、「父親の年齢 55 歳以下」、「短大・高専卒」、「長女以外」、「親の所得 500 ~ 999 万円以下」のケースであった。親子とも比較的若い年齢に非正規就業と同居との関係が見られるが、これは、年功賃金制下のプロファイルでは 50 代前半から半ばにかけての所得が非常に高い親が、非正規就業に就き所得が安定していない子どもの面倒を見ているという関係を反映している。

その他のケース、例えば「長女」のケースでは非就業形態ダミーが有意とならず、定数項が正に有意であることから、就業形態に関係なく、長男・長女が親の面倒をみなければならないといった社会的慣習が大きく左右するものと推測される。

未婚継続サンプルに関する基本統計量は図表 - 5 に、実証結果は図表 - 7 に示した。ここでは、年齢の一次の項が正、二次の項が負となっているが、後者では有意な検定結果を得られなかったため、年齢に関する非線形性は検出されなかった。また経済的変数では、貯蓄が有意に正となっている。しかし、就業形態ダミーはいずれも有意とはならなかった。

固定的要因別にみると、「27 ~ 30 歳」、「専門・専修卒」、「父親の年齢 56 歳以上」以外では、いずれかの就業形態ダミーは同居確率に対して正の影響を与えることが判明した(図表 - 8)。ただし、「31 ~ 34 歳」では「嘱託ダミー」が、「大学・大学院卒」では「パートダミー」が有意に同居確率を低める検定結果となっている。これは、非正規就業においても、長期継続就業・就業経験は、正規従業員並みの経済的自立を持ちうることなどが推測される。

また、全無配偶サンプルに結果に加え、「町村」、「親の所得 499 万円以下」のケースでは、複数の就業形態ダミーが有意に正の結果となっている。このことは、住居費などが比較的安い「町村」において、ある程度の経済的自立性をもつことで独立世帯を持ちうることを示唆されている。

5. むすび

これまで、結婚選択に関する実証研究では、クロスセクション推計やそれを複数年合併したプーリング推計が用いられてきた。本稿では、家計経済研究所が作成した「消費生活に関するパネル調査」を使用し、パネルデータ推計方法に則って分析を行った。ここでは、同一個人が複数年に渡って継続回答していることから、プーリング推計において行われてきた特別な仮定をおく必要はなく、また対数尤度比検定の結果からパネルデータ推計方法の方が頑強であるということが検出された。

¹²⁾ 親の年収 1000 万円以上」サンプルを用いた分析では、サンプル数が少なく、非正規就業ダミーが全て揃わなかったために割愛した。

第一の実証では、前年の本人年収、前年の貯蓄、年齢が結婚確率に対して有意な説明変数であることが確認された。また、多くのケースにおいて、前年の「同居」ダミーが結婚選択に対して負の影響を与えており、親との同居が有意に結婚を遅らせる因子として働いていることがわかった。それに加え、先行研究と異なりパート、嘱託などの非正規就業ダミーが、むしろ結婚を遅らせる結果となった。経済学、社会学において、晩婚化の原因として取り上げられてきた両者であったが、前年の同居ダミーの方が相対的に有意な結果が得られることが確認された(図表-3)。では、これまで経済学で考えられてきた、就業状態の選択は、結婚選択に対して影響を持たないということなのか。今度は、居住状態の選択(親との同居)がその後の婚姻状態選択に対して大きく影響を持つことを仮定し、その居住状態選択に対して、就業状態がどのような影響を持っているかについて、第二の実証では分析を行った。ここでは、年齢の一次項の係数が正(同居確率を高める)、二次項の係数が負(同居確率を低める)となっていたが、後者は有意な検定結果ではなかったため、年齢に関する非線形性は検出できなかった。また経済的変数では貯蓄が有意に正の結果となった。

未婚継続サンプルにおいて、固定的要因別に分析を行うと、多くのケースにおいて、非正規就業・失業ダミーは同居に対して正の効果をもつことがわかった。中でも、「24~26歳」、「父親の年齢55歳以下」、「町村」、「親の所得499万円」のケースでは、就業形態が居住形態に与える影響が大きいということが判明した。これらの実証結果からわかることは、就業形態は、結婚選択や、それと関係の深い居住形態に対して一様な影響を与えているのではなく、本人の年齢が「24~26歳」と比較的若く、居住地域が「町村」、「父親の年齢55歳以下」などのケースにのみでその関係性が見られることがわかった。

雇用条件の悪化、また親の世代ほど安定した賃金が稼得しにくいことなどに伴い、親と同居し、その親の庇護の元に居座ってしまう「パラサイトシングル」化がますます助長されている。以前のように女性のキャリア志向が結婚を遅らせているというよりは、むしろ非正規就業・失業状態からの脱却などの促進・補助が晩婚化問題の解消に必要であることが政策的インプリケーションとして考えうる。

参考文献

- 加藤久和, 2001, 『人口経済学入門』, 日本評論社 .
- 樋口美雄, 1994, 「育児休業制度の実証分析」, 社会保障研究所編 『現代家族と社会保障』, 東京大学出版会, 181 ~ 204 .
- 樋口美雄・阿部正浩, 1999, 「経済変動と女性の結婚・出産・就業のタイミング」, 樋口美雄, 岩田正美編, 『パネルデータからみた現代女性』, 東洋経済新報社, 25 ~ 65 .
- 山田昌弘, 1996, 『結婚の社会学』, 丸善ライブラリー .
- 山田昌弘, 1999, 『パラサイトシングル』, ちくま新書 .
- Baltagi, B., 1995 Econometric Analysis of Panel Data, John Wiley & Sons.
- Greene, William H., 2000, Econometric Analysis, 4th ed, New Jersey: Prentice-Hall.
- Hsiao, C., 1986, Analysis of Panel Data, Cambridge University Press.

図表 - 1. 基本統計量

| 変数 | サンプル数 | 平均 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
|----------------------------|-------|---------|---------|-----|------|
| inc (本人収入,万円) | 2038 | 258.107 | 143.924 | 0 | 1120 |
| dep (預金残高,万円) | 1282 | 264.234 | 249.911 | 1 | 1540 |
| loan (借入残高,万円) | 373 | 116.164 | 247.625 | 1 | 2820 |
| targetsav (結婚のための貯蓄目標額,万円) | 1043 | 284.819 | 193.404 | 20 | 3000 |
| marry1* (結婚意思 まもなくする) | 2038 | 0.062 | 0.241 | 0 | 1 |
| marry2* (結婚意思 すぐしたい) | 2038 | 0.098 | 0.298 | 0 | 1 |
| marry3* (結婚意思 いずれしたい) | 2038 | 0.296 | 0.457 | 0 | 1 |
| marry4* (結婚意思 必ずしもしなくてよい) | 2038 | 0.118 | 0.322 | 0 | 1 |
| marry5* (結婚意思 したくない) | 2038 | 0.018 | 0.132 | 0 | 1 |
| child1* (出産意思 是非ほしい) | 2038 | 0.240 | 0.427 | 0 | 1 |
| child2* (出産意思 条件によって欲しい) | 2038 | 0.083 | 0.276 | 0 | 1 |
| child3* (出産意思 ほしくない) | 2038 | 0.062 | 0.241 | 0 | 1 |
| edudu1* (本人学歴 高卒) | 2038 | 0.338 | 0.473 | 0 | 1 |
| edudu2* (本人学歴 専門学校卒) | 2038 | 0.194 | 0.396 | 0 | 1 |
| edudu3* (本人学歴 短大卒) | 2038 | 0.219 | 0.414 | 0 | 1 |
| edudu4* (本人学歴 大卒) | 2038 | 0.192 | 0.394 | 0 | 1 |

*Yes=1, No=0

図表 - 2. 推計結果

Random-effect Probit Model

GEE Population-averaged Model

| 被説明変数 結婚ダミー (既婚=1, 独身=0) | モデル 1-1 | | モデル 1-2 | | モデル 1-3 | | モデル 1-4 | | |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|--|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | |
| inc(年収) | -0.011 | -6.61 *** | -0.014 | -5.55 *** | -0.005 | -7.26 *** | -0.006 | -6.94 *** | |
| inc^2(年収の2次項) | --- | --- | 0.000 | 1.92 * | --- | --- | 0.000 | 3.52 *** | |
| age(年齢) | 3.313 | 3.96 *** | 3.388 | 4.02 *** | 1.241 | 3.74 *** | 1.216 | 3.62 *** | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.054 | -3.97 *** | -0.055 | -4.05 *** | -0.021 | -3.72 *** | -0.020 | -3.60 *** | |
| dep(貯蓄) | 0.011 | 2.73 *** | 0.011 | 2.55 ** | 0.004 | 2.23 *** | 0.004 | 2.30 ** | |
| Cohabpa(同居) | -1.643 | -5.99 *** | -1.616 | -5.71 *** | -0.715 | -7.92 *** | -0.702 | -7.78 *** | |
| Occupdu1(パート) | -0.397 | -1.14 | -0.442 | -1.25 | -0.192 | -1.50 ** | -0.203 | -1.59 | |
| Occupdu2(嘱託) | -1.194 | -1.9 * | -0.975 | -1.81 * | -0.599 | -2.20 *** | -0.612 | -2.24 ** | |
| Occupdu3(無業) | 26.453 | -3.11 *** | -1.288 | -3.21 *** | -0.439 | -4.09 *** | -0.480 | -4.40 *** | |
| constant | 1.278 | 4.1 *** | 27.344 | 4.21 *** | 10.468 | 3.83 *** | 10.289 | 3.73 *** | |
| 診断テスト | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 1,301 | | 1,301 | | 1,301 | | 1,301 | | |
| グループ数 | 421 | | 421 | | 421 | | 421 | | |
| Wald chi2 | 80.19 | | 78.27 | | 122.51 | | 122.11 | | |
| rho | 0.85 | | 0.85 | | | | | | |
| Log likelihood | -438.60 | | -437.21 | | | | | | |
| Likelihood ratio test of rho=0 | 198.86 | | 199.00 | | | | | | |
| Prob>=chibar2 | 0.000 | | 0.000 | | | | | | |

注)***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意。

図表 - 3. 推計結果

| 被説明変数:結婚ダミー (既婚=1,独身=0) | 13大都市 | | その他の市 | | 町村 | | 24~29歳 | | 30~34歳 | | | | | | |
|----------------------------|---------|-------|-----------|------------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-----|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | | | | | |
| inc(年収) | -0.006 | -1.62 | -0.006196 | -6.06 | *** | -0.024 | -3.08 | *** | -0.005 | -3.2 | *** | -0.009 | -4.01 | *** | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | 0.10 | --- | --- | | 0.000 | 2.28 | ** | 0.000 | -0.38 | | 0.000 | 2.57 | *** | |
| age(年齢) | 1.649 | 2.43 | ** | 1.086954 | 2.67 | *** | 1.549 | 1.91 | ** | 4.433 | 2.29 | ** | 0.787 | 0.37 | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.029 | -2.56 | *** | -0.0180454 | -2.68 | *** | -0.026 | -1.87 | * | -0.078 | -2.21 | ** | -0.010 | -0.37 | |
| dep(貯蓄) | -0.001 | -0.18 | | 0.0061954 | 2.35 | ** | 0.004 | 0.46 | | 0.006 | 2.3 | ** | 0.003 | 0.77 | |
| Cohabpa(同居) | -1.171 | -5.53 | *** | -7.59E-01 | -6.88 | ** | -0.313 | -1.10 | | -0.648 | -5.13 | *** | -0.776 | -4.49 | *** |
| Occupdu1(パート) | -0.937 | -2.20 | ** | -7.01E-02 | -0.47 | | -0.044 | -0.10 | | -0.116 | -0.65 | | -0.291 | -1.4 | |
| Occupdu2(嘱託) | --- | --- | | -5.93E-01 | -1.96 | ** | -0.817 | -3.96 | *** | -0.964 | -3.77 | *** | -0.254 | -0.57 | |
| Occupdu3(無業) | -0.580 | -1.81 | * | -2.82E-01 | -2.14 | ** | -0.148 | -0.81 | | -0.499 | -3.41 | *** | -0.391 | -1.81 | * |
| constant | 15.462 | 2.74 | *** | 9.35E+00 | 2.82 | *** | 13.264 | 1.92 | * | 39.431 | 2.18 | ** | 10.749 | 0.39 | |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 388 | | 723 | | | 173 | | | 758 | | | 466 | | | |
| グループ数 | --- | | 253 | | | 71 | | | 306 | | | 210 | | | |
| Wald chi2 | 58.54 | | 113.74 | | | 30.83 | | | 70.45 | | | 43.65 | | | |
| Pseud R2 | 0.19 | | --- | | | --- | | | --- | | | --- | | | |
| モデル | pooling | | 1-3 | | | 1-4 | | | 1-4 | | | 1-4 | | | |

| 被説明変数:結婚ダミー (既婚=1,独身=0) | 専門 専修学校卒 | | 短大 高専卒 | | 大学 大学院卒 | | 親の年収499万円以下 | | 親の年収500~999万円 | | | | | | |
|----------------------------|----------|-------|--------|--------|---------|-------|-------------|-------|---------------|--------|-------|-------|--------|-------|-----|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | | | | | |
| inc(年収) | -0.009 | -1.09 | | -0.012 | -3.29 | *** | -0.012 | -2.07 | ** | -0.013 | -2.74 | *** | -0.008 | -2.17 | ** |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.35 | | 0.000 | 0.7 | | 0.000 | 0.57 | | 0.000 | 0.67 | | 0.000 | 0.64 | |
| age(年齢) | 1.953 | 2.79 | *** | 3.589 | 5.15 | *** | 0.295 | 0.43 | | 1.878 | 2.43 | ** | 0.966 | 0.96 | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.033 | -2.75 | *** | -0.061 | -5.09 | *** | -0.004 | -0.33 | | -0.033 | -2.53 | ** | -0.017 | -0.96 | |
| dep(貯蓄) | 0.019 | 2.34 | ** | 0.004 | 0.54 | | 0.013 | 1.97 | ** | 0.004 | 0.6 | | 0.007 | 0.84 | |
| Cohabpa(同居) | -0.295 | -1.32 | | -0.748 | -4.78 | *** | -0.929 | -4.45 | *** | -1.737 | -5.79 | *** | -0.670 | -2.43 | |
| Occupdu1(パート) | 0.154 | 0.55 | | -0.645 | -2.2 | ** | -0.052 | -0.15 | | 0.199 | 0.54 | | -0.873 | -2.05 | ** |
| Occupdu2(嘱託) | 0.012 | 0.02 | | -0.872 | -3.85 | *** | -1.452 | -2.61 | *** | -0.518 | -0.85 | | 0.191 | 0.32 | |
| Occupdu3(無業) | -0.067 | -0.33 | | -0.672 | -2.66 | *** | -0.594 | -1.89 | * | -0.143 | -0.37 | | -0.915 | -3.57 | *** |
| constant | 15.667 | 2.69 | *** | 30.560 | 5.07 | *** | 1.782 | 0.32 | | 18.083 | 2.76 | *** | 8.662 | 0.99 | |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 251 | | 310 | | | 281 | | | 278 | | | 217 | | | |
| グループ数 | 82 | | 99 | | | 84 | | | | | | 161 | | | |
| Wald chi2 | 22.52 | | 95.46 | | | 46.13 | | | 73.86 | | | 21.49 | | | |
| Pseud R2 | --- | | --- | | | --- | | | 0.30 | | | --- | | | |
| モデル | 1-4 | | 1-4 | | | 1-4 | | | pooling | | | 1-4 | | | |

注)***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意
pooling は pooling-probit を示す。

図表 - 4. 基本統計量 (無配偶サンプル)

| 変数 | サンプル数 | 平均 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
|---------------------------|-------|--------|--------|-----|-------|
| inc (本人収入,万円) | 1,695 | 274.98 | 139.38 | 0 | 1,120 |
| dep (貯蓄,万円) | 1,417 | 280.43 | 262.47 | 1 | 1,540 |
| marry1* (結婚意思 まもなくする) | 1,210 | 0.11 | 0.31 | 0 | 1 |
| marry2* (結婚意思 すぐしたい) | 1,210 | 0.16 | 0.37 | 0 | 1 |
| marry3* (結婚意思 いずれしたい) | 1,210 | 0.47 | 0.50 | 0 | 1 |
| marry4* (結婚意思 必ずしもしなくてよい) | 1,210 | 0.22 | 0.41 | 0 | 1 |
| marry5* (結婚意思 したくない) | 1,210 | 0.04 | 0.19 | 0 | 1 |
| child1* (出産意思 是非ほしい) | 665 | 0.33 | 0.47 | 0 | 1 |
| child2* (出産意思 条件によって欲しい) | 665 | 0.26 | 0.43 | 0 | 1 |
| child3* (出産意思 ほしくない) | 665 | 0.42 | 0.49 | 0 | 1 |
| edudu1* (本人学歴 高卒) | 375 | 0.43 | 0.50 | 0 | 1 |
| edudu2* (本人学歴 専門学校卒) | 375 | 0.21 | 0.41 | 0 | 1 |
| edudu3* (本人学歴 短大卒) | 375 | 0.20 | 0.40 | 0 | 1 |
| edudu4* (本人学歴 大卒) | 375 | 0.15 | 0.36 | 0 | 1 |

* Yes=1、No=0

図表 - 5. 基本統計量 (未婚継続サンプル)

| 変数 | サンプル数 | 平均 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
|---------------------------|-------|--------|--------|-----|-------|
| inc (本人収入,万円) | 998 | 288.49 | 139.40 | 0 | 1,120 |
| dep (貯蓄,万円) | 880 | 316.26 | 279.24 | 1 | 1,540 |
| marry1* (結婚意思 まもなくする) | 782 | 0.03 | 0.18 | 0 | 1 |
| marry2* (結婚意思 すぐしたい) | 782 | 0.18 | 0.39 | 0 | 1 |
| marry3* (結婚意思 いずれしたい) | 782 | 0.56 | 0.50 | 0 | 1 |
| marry4* (結婚意思 必ずしもしなくてよい) | 782 | 0.20 | 0.40 | 0 | 1 |
| marry5* (結婚意思 したくない) | 782 | 0.02 | 0.15 | 0 | 1 |
| child1* (出産意思 是非ほしい) | 374 | 0.33 | 0.47 | 0 | 1 |
| child2* (出産意思 条件によって欲しい) | 374 | 0.23 | 0.42 | 0 | 1 |
| child3* (出産意思 ほしくない) | 374 | 0.43 | 0.50 | 0 | 1 |
| edudu1* (本人学歴 高卒) | 221 | 0.41 | 0.49 | 0 | 1 |
| edudu2* (本人学歴 専門学校卒) | 221 | 0.18 | 0.39 | 0 | 1 |
| edudu3* (本人学歴 短大卒) | 221 | 0.26 | 0.44 | 0 | 1 |
| edudu4* (本人学歴 大卒) | 221 | 0.15 | 0.36 | 0 | 1 |

* Yes=1, No=0

図表 - 6. 推計結果(全無配偶サンプル&未婚継続サンプル)

Random-effect Probit Model

GEE Population-averaged Model

| 被説明変数:同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 全無配偶 | | 未婚継続 | | 全無配偶 | | 未婚継続 | |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|-----------|--------|----------|--------|----------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 |
| inc(年収) | -0.001 | -0.43 | -0.002 | -0.72 | -0.001 | -1.91 ** | -0.003 | -2.23 ** |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | 0.11 | 0.000 | 0.15 | 0.000 | 1.21 | 0.000 | 1.19 |
| age(年齢) | -0.468 | -3.18 *** | -0.515 | -2.89 *** | -0.111 | -2.04 ** | -0.134 | -1.56 |
| age^2(年齢の2次項) | 0.003 | 0.25 | 0.010 | 0.82 | -0.001 | -0.18 | 0.006 | 0.31 |
| dep(貯蓄) | 0.002 | 4.08 *** | 0.002 | 3.46 *** | 0.001 | 1.75 * | 0.001 | 1.67 * |
| Occupdu1(パート) | 0.465 | 1.26 | 0.408 | 1.01 | -0.013 | -0.08 | -0.236 | -0.92 |
| Occupdu2(嘱託) | 0.261 | 0.38 | -0.056 | -0.07 | 0.331 | 2.26 ** | 0.201 | 0.96 |
| Occupdu3(家族従業員) | -0.388 | -0.65 | -0.416 | -0.65 | 0.315 | 0.98 | 0.492 | 0.35 |
| Occupdu4(無業) | 0.547 | 1.19 | 0.793 | 1.38 | 0.180 | 0.89 | 0.385 | 0.53 |
| constant | 6.272 | 4.09 *** | 6.191 | 3.57 *** | 1.088 | 1.65 * | 2.118 | 1.94 * |
| 診断テスト | | | | | | | | |
| サンプル数 | 1,472 | | 932 | | 1,472 | | 932 | |
| グループ数 | 466 | | 211 | | 466 | | 211 | |
| Wald chi2 | 64.51 | | 452.74 | | 62.41 | | 32.09 | |
| rho | 0.94 | | 0.92 | | | | | |
| Log likelihood | -340.29 | | -186.89 | | | | | |
| Likelihood ratio test of rho=0 | 343.96 | | 169.33 | | | | | |
| Prob>=chibar2 | 0.000 | | 0.000 | | | | | |

注)***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意。

図表 - 7. 推計結果(全無配偶サンプル)

| 被説明変数 :同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 13大都市 | | その他の市 | | 町村 | | 24～26歳 | | 27～30歳 | | |
|---------------------------------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | |
| inc(年収) | -0.001 | -1.32 | -0.006 | -1.26 | -0.001 | -0.43 | -0.001 | -0.51 | -0.001 | -0.14 | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.19 | 0.000 | 0.96 | 0.000 | 0.54 | 0.000 | -0.05 | 0.000 | 0.51 | |
| age(年齢) | -0.084 | -1.31 | -0.643 | -2.86 | *** | -0.091 | -0.74 | 0.183 | 1.21 | -0.952 | -1.88 |
| age^2(年齢の2次項) | -0.002 | -0.57 | 0.014 | 0.92 | | -0.002 | -0.22 | -0.049 | -2.59 | *** | 0.055 |
| dep(貯蓄) | 0.001 | 2.78 | *** | 0.000 | -0.54 | 0.000 | -0.02 | 0.002 | 3.21 | *** | -0.001 |
| Occupdu1(パート) | -0.154 | -0.92 | | 1.532 | 2.46 | ** | -0.229 | -0.59 | 0.025 | 0.09 | 1.972 |
| Occupdu2(嘱託) | 0.281 | 2.41 | ** | -0.033 | -0.04 | 2.224 | 0.81 | 2.016 | 7.32 | *** | 1.798 |
| Occupdu3(家族従業員) | 0.348 | 1.17 | | 1.372 | 0.89 | --- | --- | 2.118 | 6.24 | *** | -0.557 |
| Occupdu4(無業) | -0.044 | -0.25 | | -0.322 | -0.39 | 0.798 | 3.60 | *** | 0.352 | 0.78 | 1.376 |
| constant | 1.038 | 1.72 | * | 6.744 | 2.38 | ** | 6.272 | -0.33 | -3.005 | -2.93 | *** |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 480 | | 797 | | 1,472 | | 932 | | 1,472 | | |
| グループ数 | 146 | | 264 | | 466 | | 211 | | 466 | | |
| Wald chi2 | 38.98 | | 39.32 | | 64.51 | | 452.74 | | 64.51 | | |

| 被説明変数 :同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 31～34歳 | | 高校卒 | | 専門・専修卒 | | 短大・高専卒 | | 大学・大学院卒 | | |
|---------------------------------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|-------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | |
| inc(年収) | 0.000 | -0.56 | -0.002 | -1.16 | -0.003 | -0.95 | -0.015 | -2.94 | *** | 0.004 | 2.16 |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.07 | 0.000 | 0.58 | 0.000 | 0.66 | 0.000 | 2.44 | *** | 0.000 | -3.73 |
| age(年齢) | -0.092 | -1.43 | 0.006 | 0.09 | -0.010 | -0.07 | -0.361 | -1.55 | -0.228 | -1.30 | |
| age^2(年齢の2次項) | 0.000 | -0.04 | -0.006 | -1.32 | -0.012 | -0.93 | 0.013 | 0.85 | 0.005 | 0.46 | |
| dep(貯蓄) | 0.000 | 2.23 | ** | 0.001 | 0.93 | 0.001 | 1.76 | * | 0.001 | 1.19 | 0.001 |
| Occupdu1(パート) | 0.326 | 1.13 | | -0.214 | -1.15 | -0.027 | -0.05 | -0.244 | -0.55 | -0.097 | -0.28 |
| Occupdu2(嘱託) | -0.215 | -0.91 | | 0.169 | 0.82 | 0.344 | 0.73 | 1.739 | 6.80 | *** | 0.842 |
| Occupdu3(家族従業員) | 0.507 | 1.82 | * | --- | --- | -0.263 | -0.75 | 4.391 | 2.64 | *** | 0.470 |
| Occupdu4(無業) | 0.227 | 1.64 | | 0.244 | 1.09 | 0.562 | 0.63 | -0.277 | -0.67 | 0.034 | 0.08 |
| constant | -0.120 | -0.15 | | 1.428 | 2.28 | ** | 1.013 | 0.57 | --- | --- | 0.375 |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 932 | | 491 | | 273 | | 355 | | 302 | | |
| グループ数 | 211 | | 156 | | 91 | | 108 | | 92 | | |
| Wald chi2 | 452.74 | | 30.17 | | 27.96 | | 495.38 | | 151.50 | | |

| 被説明変数 :同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 親の所得499万円以下 | | 親の所得500～999万円以下 | | 長女 | | 長女以外 | | 父親の年齢55歳以下 | | |
|---------------------------------|-------------|-------|-----------------|--------|-------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | |
| inc(年収) | -0.001 | -0.60 | -0.003 | -1.75 | * | -0.003 | -0.99 | -0.001 | -0.58 | -0.005 | -1.28 |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | 0.07 | 0.000 | 1.32 | | 0.000 | 0.58 | 0.000 | 0.92 | 0.000 | 0.74 |
| age(年齢) | 0.102 | 0.77 | -0.071 | -0.53 | | -1.056 | -3.95 | *** | -0.023 | -0.24 | -0.269 |
| age^2(年齢の2次項) | -0.010 | -1.48 | -0.004 | -0.39 | | 0.037 | 2.44 | ** | -0.007 | -1.14 | 0.007 |
| dep(貯蓄) | 0.001 | 2.56 | ** | 0.001 | 2.08 | ** | 0.002 | 2.89 | *** | 0.000 | 0.28 |
| Occupdu1(パート) | 0.124 | 0.38 | | 0.034 | 0.10 | 0.682 | 1.30 | 0.259 | 0.82 | 0.000 | 0.00 |
| Occupdu2(嘱託) | 1.120 | 6.61 | *** | 0.135 | 0.20 | -0.287 | -0.40 | 1.392 | 2.38 | ** | 1.217 |
| Occupdu3(家族従業員) | -0.090 | -0.16 | | 2.515 | 4.28 | *** | -0.678 | -1.05 | 0.533 | 0.84 | 1.988 |
| Occupdu4(無業) | 0.438 | 1.02 | | 0.516 | 1.85 | * | 0.249 | 0.48 | 0.944 | 2.51 | *** |
| constant | -0.290 | -0.22 | | -1.177 | -0.77 | | 10.395 | 4.95 | *** | -1.78 | -1.22 |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 397 | | 330 | | 1,029 | | 364 | | 413 | | |
| グループ数 | 233 | | 208 | | 316 | | 114 | | 144 | | |
| Wald chi2 | 135.97 | | 56.30 | | 38.15 | | 29.28 | | 78.08 | | |

| 被説明変数 :同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 父親の年齢56歳以上 | | 母親就業経験なし | | 母親就業経験あり | |
|---------------------------------|------------|-------|----------|--------|----------|--------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 |
| inc(年収) | 0.000 | 0.02 | -0.001 | -1.17 | -0.001 | -0.74 |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.18 | 0.000 | 0.78 | 0.000 | -0.04 |
| age(年齢) | -0.804 | -3.33 | *** | -0.087 | -0.74 | -0.090 |
| age^2(年齢の2次項) | 0.026 | 1.84 | * | -0.003 | -0.37 | 0.000 |
| dep(貯蓄) | 0.002 | 3.05 | ** | 0.000 | 0.69 | 0.000 |
| Occupdu1(パート) | 0.955 | 1.90 | * | -0.031 | -0.11 | -0.043 |
| Occupdu2(嘱託) | 0.000 | 0.00 | | 0.346 | 0.97 | 0.289 |
| Occupdu3(家族従業員) | 1.398 | 1.29 | | 2.27 | 5.96 | *** |
| Occupdu4(無業) | 0.416 | 0.77 | | 0.403 | 1.35 | 0.025 |
| constant | 5.221 | 2.50 | ** | -0.940 | -0.91 | 1.672 |
| 診断テスト | | | | | | |
| サンプル数 | 817 | | 524 | | 870 | |
| グループ数 | 236 | | 160 | | 271 | |
| Wald chi2 | 33.58 | | 50.92 | | 28.88 | |

注)***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意。

図表 - 8. 推計結果(未婚継続サンプル)

| 被説明変数:同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 13大都市 | | その他の市 | | 町村 | | 24~26歳 | | 27~30歳 | | | | |
|--------------------------------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | | | |
| inc(年収) | 0.000 | -0.02 | -0.004 | -2.00 | ** | -0.003 | -1.18 | -0.001 | -0.24 | -0.002 | -0.89 | | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -1.41 | 0.000 | 1.94 | * | 0.000 | 0.69 | 0.000 | -0.75 | 0.000 | 0.84 | | |
| age(年齢) | -0.103 | -1.14 | -0.204 | -1.22 | | -0.196 | -4.11 | *** | -0.135 | -0.46 | -0.112 | -0.53 | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.001 | -1.32 | 0.008 | 0.68 | | 0.015 | 4.41 | *** | 0.002 | -0.39 | 0.007 | 0.26 | |
| dep(貯蓄) | 0.002 | 2.96 | *** | 0.000 | 0.30 | 0.002 | 2.62 | *** | 0.001 | 2.39 | ** | 0.000 | 0.08 |
| Occupdu1(パート) | -0.404 | -1.64 | | 0.196 | 0.52 | -0.148 | -0.40 | | -0.293 | -0.81 | | -0.029 | -0.06 |
| Occupdu2(嘱託) | 0.431 | 2.96 | *** | -0.074 | -0.28 | 1.125 | 2.16 | ** | 2.068 | 6.45 | *** | 0.370 | 1.63 |
| Occupdu3(家族従業員) | 0.19 | 0.33 | | 1.926 | 4.77 | *** | --- | --- | 2.249 | 3.76 | *** | -0.547 | -0.93 |
| Occupdu4(無業) | 0.165 | 0.78 | | -0.495 | -0.92 | | 0.310 | 3.92 | *** | 0.267 | 0.36 | 0.347 | 0.47 |
| constant | 1.322 | 1.18 | | 1.565 | 1.41 | | 0.43 | 0.42 | -1.843 | -1.12 | | 1.845 | 0.93 |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 340 | | 487 | | 105 | | 457 | | 381 | | | | |
| グループ数 | 81 | | 114 | | 27 | | 107 | | 84 | | | | |
| Wald chi2 | 44.83 | | 30.08 | | 34.58 | | 81.21 | | 34.64 | | | | |

| 被説明変数:同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 31~34歳 | | 高校卒 | | 専門・専修卒 | | 短大・高専卒 | | 大学・大学院卒 | | | | | |
|--------------------------------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|-------|-----|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | | | | |
| inc(年収) | 0.001 | 1.47 | -0.002 | -0.55 | | -0.007 | -1.57 | -0.010 | -2.66 | *** | 0.009 | 2.15 | ** | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.79 | 0.000 | -0.14 | | 0.000 | 0.77 | 0.000 | 2.48 | ** | 0.000 | -1.94 | * | |
| age(年齢) | -0.014 | -0.16 | 0.001 | 0.01 | | 0.154 | 1.72 | -0.177 | -0.30 | | -0.529 | -1.83 | * | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.011 | -0.75 | -0.003 | -0.37 | | -0.023 | -3.05 | 0.007 | 0.38 | | 0.023 | 1.16 | | |
| dep(貯蓄) | 0.001 | 1.74 | * | 0.001 | 2.11 | ** | 0.003 | 2.25 | * | 0.000 | 0.21 | 0.005 | 2.86 | *** |
| Occupdu1(パート) | 0.515 | 1.22 | | -0.146 | -0.67 | | -0.504 | -0.70 | -0.835 | -1.56 | | -1.495 | -2.22 | ** |
| Occupdu2(嘱託) | -0.608 | -2.23 | ** | 0.713 | 3.71 | *** | -0.251 | -0.52 | 1.180 | 4.51 | *** | --- | --- | |
| Occupdu3(家族従業員) | 0.579 | 3.83 | *** | 1.78 | 5.71 | *** | -0.263 | -0.75 | 4.672 | 2.44 | ** | 2.991 | 4.55 | *** |
| Occupdu4(無業) | 0.183 | 1.62 | | 0.615 | 1.00 | | --- | --- | -0.529 | -1.18 | | 0.386 | 0.49 | |
| constant | -0.173 | -0.18 | | -1.238 | -0.86 | | 2.530 | 1.21 | --- | --- | | -0.311 | -0.15 | |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 94 | | 296 | | 163 | | 238 | | 200 | | | | | |
| グループ数 | 20 | | 67 | | 38 | | 53 | | 44 | | | | | |
| Wald chi2 | 37.65 | | 85.60 | | 28.96 | | 444.47 | | 72.24 | | | | | |

| 被説明変数:同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 親の所得499万円以下 | | 親の所得500~999万円以下 | | 親の年収1000万円以上 | | 長女 | | 長女以外 | | | | | |
|--------------------------------|-------------|-------|-----------------|--------|--------------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | | | | |
| inc(年収) | 0.001 | 0.19 | -0.003 | -1.47 | | -0.005 | -2.17 | ** | -0.017 | -2.60 | *** | -0.002 | -0.63 | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | -0.66 | 0.000 | 1.23 | | 0.000 | 1.32 | | 0.000 | 1.33 | | 0.000 | 0.90 | |
| age(年齢) | 0.002 | 0.01 | -0.223 | -1.01 | | -0.360 | -1.52 | | -0.366 | -1.47 | | -0.023 | -0.16 | |
| age^2(年齢の2次項) | -0.012 | -0.70 | 0.012 | 0.58 | | 0.005 | 0.27 | | 0.002 | 0.12 | | -0.007 | -0.80 | |
| dep(貯蓄) | 0.002 | 2.33 | ** | 0.002 | 3.03 | *** | 0.002 | 2.37 | ** | 0.003 | 3.03 | *** | 0.000 | -0.24 |
| Occupdu1(パート) | 3.355 | 6.39 | *** | -0.213 | -0.52 | | -0.144 | -0.29 | | -0.965 | -1.83 | * | 0.481 | 0.84 |
| Occupdu2(嘱託) | 1.618 | 5.71 | *** | 1.059 | 3.61 | *** | 0.971 | 0.73 | | -0.852 | -0.94 | | 1.595 | 2.18 |
| Occupdu3(家族従業員) | 0.049 | 0.07 | | --- | --- | | 1.695 | 3.34 | *** | -1.678 | -2.03 | ** | 2.524 | 5.69 |
| Occupdu4(無業) | 0.732 | 1.08 | | 0.342 | 1.05 | | -0.302 | -0.46 | | 1.029 | 1.31 | | 0.943 | 1.33 |
| constant | -4.256 | -1.76 | | 1.157 | 0.90 | | 1.352 | 0.60 | | 13.182 | 4.38 | *** | -3.67 | -1.60 |
| 診断テスト | | | | | | | | | | | | | | |
| サンプル数 | 227 | | 197 | | 99 | | 647 | | 238 | | | | | |
| グループ数 | 118 | | 108 | | 55 | | 144 | | 56 | | | | | |
| Wald chi2 | 175.87 | | 37.76 | | 67.10 | | 30.30 | | 146.06 | | | | | |

| 被説明変数:同居ダミー (親と同居=1,親と別居=0) | 父親の年齢55歳以下 | | 父親の年齢56歳以上 | | |
|--------------------------------|------------|-------|------------|--------|-------|
| | 推計値 | 漸近的t値 | 推計値 | 漸近的t値 | |
| inc(年収) | -0.011 | -1.12 | -0.001 | -1.34 | |
| inc^2(年収の2次項) | 0.000 | 0.79 | 0.000 | 1.06 | |
| age(年齢) | -1.177 | -3.42 | *** | -0.015 | -0.14 |
| age^2(年齢の2次項) | 0.082 | 2.90 | *** | -0.003 | -0.42 |
| dep(貯蓄) | 0.003 | 3.07 | *** | 0.001 | 2.37 |
| Occupdu1(パート) | -0.224 | -0.32 | | -0.317 | -1.04 |
| Occupdu2(嘱託) | 0.956 | 1.84 | ** | -0.073 | -0.28 |
| Occupdu3(家族従業員) | 2.006 | 4.47 | *** | 3.266 | 0.26 |
| Occupdu4(無業) | 0.779 | 1.88 | * | -0.048 | -0.13 |
| constant | 2.817 | 1.02 | | -1.080 | -0.09 |
| 診断テスト | | | | | |
| サンプル数 | 230 | | 549 | | |
| グループ数 | 53 | | 121 | | |
| Wald chi2 | 48.53 | | 12.43 | | |

注)***は1%水準、**は5%水準、*は10%水準で有意。